

6月の戸田は白い花が多い・・・

戸田近郊の白い花が咲く木をご紹介します



山帽子 (ヤマボウシ)



油桐 (アブラギリ)



白膠木 (ヌルデ)



鼠もち (ネズミモチ)

essay
投稿

梅雨の晴れ間の白い花

山田 案山子

早朝、開け放った窓から鶯の囀りに混じって、時鳥のカン高い鳴き声が部屋の中に飛び込んできた。「そうか、雨は上がっていたのか」と外を見やりながら、昨晚の事を思い出していた。

床に就いてからもずっと一つのことに拘泥し、いつまでも寝付かなかった。屋根に落ちる雨音を聞きながら、いつの間にか眠ってしまった自分をフンと、笑いながら、身支度を急ぐ。いつもの朝の時間となった。



沢蓋木 (サワフタギ)



箱根空木 (ハコネウツギ)

出勤のハンドルを握り、川と崖に挟まれた道路を進む。昨夜来の雨で川の水嵩は増し、葦の原が流れの中に揺れている。崖上の『沢蓋木』の花が、幾つもフロントガラス越しに頭上を掠める。頭の中では昨晩からの思いに囚われながら、白い花の季節が始まったことをふと思う。



丸葉空木 (マルバウツギ)



蛍袋 (ホタルブクロ)

過日、袖道を上った時のことである。『小額空木』の白い可憐な花が幾重にも私の行く手を阻み、疎林の切れた辺りに道標の如く点々と続いていたことを思い出す。この崖もやがて、『空木』と『蛍袋』に覆われるのだらうと想像しながら道を急ぐ。



がまずみ (ガマズミ)



忍冬 (スイカズラ)

車は温泉街から、坂道に差し掛かる。『山帽子』の小さな並木が毀れんばかりの花を咲かせて、出迎えてくれた。峠に向かってアクセルを踏み込む。カーブを曲がる度に新たな白い花に出迎えられる。それらは緑の濃さを増した林の中で見事な点景となっている。『栗』の花の長い穂先。やっと咲き始めた『箱根空木』。『忍冬』は、巻き付いた灌木ごと白く揺れている。

この峠道も『がまずみ』や『野茨』など次々と別の白い花に変わりがら、季節も移ろってゆくのだらう。



照葉野薔薇 (テリハノイバラ)



野茨 (ノイバラ)

やがて、一面霧で白濁した峠にたどり着く。

この峠を下がりきった浜辺に、色鮮やかなパラソルが林立し、子供たちの歓声が波音に混じる頃、今の私の思いつめた感情は既に解決しているのだらうかと想像しながら、これからの下り道のため、車のチェンジをソフトダウンさせ、今日一日の自分の過ごし方をなぞってみるのだった。